

タイ人 変死

シンガポールでも同様の事件

思わぬ紛争の種に

長野県小諸市でタイ人男性二人が相次いで変死した事件は、百までの小諸署の司法解剖結果などによって、死因は不明。同署は犯罪の可能性は薄いとし、部屋にあった大量のタイ製薬品の調べながら、服薬などの捜査も行う。しかし平成二年に、シンガポールで働いていたタイ人労働者が相次いでナゾの死を遂げ、原因をめぐり両国が激論を展開、タイ側が労働者に補償命令を出すなど国際問題に発展したことがある。

変死したのはタイ人男性、業などをしていたが、現在、ソムチャイ・ワンナウは無職だった。オンさん、とアラティーン・シャキットさん。二人は同市内の外国人専用アパート「見晴荘」に昨年十月ごろから居住し土木作業、小諸厚生総合病院に運ばれた。

た時は手遅れだったといふ。小諸署は他殺の可能性もあるとして司法解剖。その結果、殺人の線は消えたものの、直接の死因は特定できず、さらに精査して原因を調べることになった。一方「見晴荘」の部屋にはタイから持ってきたとみられる錠剤や粉末の薬が八、九種類発見された。風邪薬や精神安定剤ならしいが、説明書がタイ語で詳しい効能は不明。このため同署は「これだけの薬を持っているのは不自然」と見るとともに、薬の服薬ではないかとの見方もしている。

現段階では、ナゾの死だが、同署の見方を支えるのは在日外国人らに医療情報などを提供している「AMDIA国際医療情報センター」の小林米寺所長（小林国際クリニック院長）の見解。

「今回の原因ははっきりわからないが、フィリピンなどアジアの国々では医師の処方せんなしで、心臓などの強い薬を貰える所が多い。本国から、そういう強い薬を持ち込み、必要のない時に飲んだり、量を二倍も飲むなどして、病院に来るケースはかなりある。外国人を受け入れる病院も少

なく、そうした薬の使用の説明を外国人が受ける機会も少ない」と話す。しかしタイ大使館は「二人については不潔滞在とみられるため事情を承知してはいない。二、三カ月前、タイ人の突然死といった連絡も入っていない」とし「タイでは、薬を手に入れる時は医師の処方せんが必要」という。

「ここでも思い出されるのは、平成二年暮のタイ・シンガポール間の紛争。シンガポールで働いていたタイ人の、ナゾの死、が相次いだ。シンガポール政府が調べたところ、七年間で二百人たに及んだ。同政府が原因調査に入り、タイ人が塩化ニールパイプを食卓の容器に利用する面があるのが原因」といった趣旨が伝えら

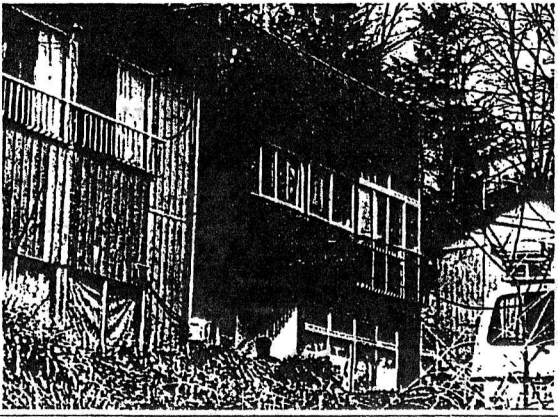
れた。また中東では同様の死がやはり同じ期間に八百人ともされた。ところが、タイ政府はこれに怒った。政府調査団を送り、シンガポールの労働環境が劣悪なためだと発表、両政府間で激論になった。タイ側が労働者に補償命令を出すほどに關係はこじれた。結局、原因は不明になった。

東京に住むあるタイ人は「シンガポールで、タイ人労働者が死んだのはビタミンの不足のせい。寝ていてそのまま死んだ人が多いと聞いている。同じアジア人で、タイ人だけが特殊体質だ」という説はほかの国のことだ。外国ではその国の法律に従うことが大切だが、タイ人労働者が不法に働いている日本などで不慮の死を迎えることは悲しい。

そしてシンガポール問題には、労働者の変死以外に、その前年シンガポール当局が不潔滞在のタイ人労働者全員にムチ打ちの刑を科す、と警告、タイ政府が軍艦などを動員して約二万人の労働者を捕国させたときさつもあるという。

福島でのフィリピン人タンスの突死事件が問題になったのは記憶に新しい。ポーランド時代、思わぬ国際問題の芽が増えた。地元の小諸保健所では「外国人労働者ももっと健康診断に来てくれれば」と話している。

謎も薬の多量もナゾも死因



変死したタイ人男性が生活していたアパート「見晴荘」(中央の建物)。部屋には何種類もの薬があった。

長野県小諸市目下